

「引・伸・灯」を基盤とした学校教育・生涯教育に邁進



本多諭 前教育長

多くの芽吹きに命のエネルギーを感じ、心躍る季節となりました。町民の皆様には益々清祥のこととお慶び申し上げます。

このたび、任期満了により、3月31日をもって大石田町教育長の職を退任いたしました。就任以来2期6年の長い間、皆様には格別なるご指導とご協力を賜り、心より感謝いたしております。

「一人一人の持つ可能性を引き出し、よさを伸ばし、心に灯をつける」「引・伸・灯」の教育を根底に据え、誠心誠意努めてまいりました。「ふるさとを愛し、ふるさとを誇りに思う子どもたち」を育てたい・・・その一心でした。

新型コロナによる生活様式の変化もありましたが、小学校の統合を軸とした小中一貫教育の計画、地域学校協働活動の充実、町民の力を結集した「大石田かるた」の作成と活用、サンサスタディの導入、多様なニーズに応える自主企画講座の展開等、多くの成果を実感できた6年間でもありました。

ただ、継続する課題も多く、ご期待に沿えないこともあったことはお詫び申し上げます。

最後に、これまで教育行政にご尽力いただいた多くの皆様に心より御礼申し上げますとともに、さらに笑顔と活力あふれる大石田町となるようご祈念申し上げ、退任のあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。

地域の絆が育む未来の教育に向けて



鈴木敦夫 新教育長

春爛漫の季節を迎え、町民の皆様には、益々清祥のこととお喜び申し上げます。

このたび、4月1日付で大石田町教育長を拝命いたしました。昨年3月までは大石田小学校の校長を務めさせていただきましたが、さらなる大きな重責に身の引き締まる思いでいっぱいです。今の初心を忘れずに、真摯に全力を挙げて職務に努めてまいります。

教育委員会の大きな課題として「小学校の統合」「中学校部活動の地域移行化」「生涯学習活動の一層の活性化」などが挙げられます。特に、令和9年4月開校予定の新しい小学校については、三つの小学校の伝統を引き継ぎながらも、大石田中学校との「地域に根ざした小中一貫校」として新たな校風づくりを目指してまいります。どの課題につきましても、児童・生徒、保護者、教職員、町民の皆様の声的大事にしながら、皆様と手を携えて取り組んでまいります。

教育行政を通して「住んでみたい町」「住み続けたい町」の実現のために精進していく所存ですので、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。就任の挨拶とさせていただきます。

ありがとう、ふたば横山保育園 20年の歴史に幕を閉じる

ふたば横山保育園は、平成17年に開園して以来、288名の子どもたちを見送り、平成19年には、104名もの子どもたちが楽しく活動していました。地域の子どもたちや利用者にとって欠かせない存在だったこの園。長い歴史を刻んだ施設が、惜しまれつつも最後の日を迎えました。

閉園式では、関係者の挨拶から始まり、在園児による歌の発表が行われました。元気いっぱい歌声が式典会場に響き渡り、ふたば横山保育園で育まれた友情や思い出が詰まった歌詞に、観客は温かい拍手を送りました。

さらに、伝統の横山げんき太鼓が披露され、力強い演奏が会場を盛り上げました。子どもたちの真剣な表情と躍動感あふれる演奏に、来場者からは感嘆の声が上がりました。

同園は、その鮮やかな黄色い外観で「黄色い保育園」として親しまれてきました。園のシンボルともいえる建物は、多くの子どもたちの成長を見守り続けてきました。閉園の報せを聞いた地域の方々からは、「あの黄色い園舎がなくなるのは寂しい」「子どもたちが元気に遊ぶ姿が印象的だった」と、惜しむ声が多く寄せられています。

園長の斎藤厚子さんは、「ふたば横山保育園は保護者や地域みんなに支えられ、子どもたちとともに成長させていたいただきました。地域や保護者の方々には感謝の気持ちしかありません。この黄色い保育園の広い園庭や豊かな自然の中でのびのびと子どもたちを育てることができ、子どもたちからたくさん笑顔をもりました。閉園となり寂しい気持ちもありますが、子どもたちにはこれからも元気いっぱい笑顔で笑顔を忘れず、前に向かって進んで欲しいと思います。」と話していました。

社会福祉法人 ふたば保育園
ふたば横山保育園

